令和3年度 大阪市立水都国際中学校 運営に関する計画
年度評価 総括

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、高等学校においては、国際バカロレア・ディプロマ・プログラムの認定校となっている。さらに、英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の各教科、ホームルーム活動において英語を用いた授業を実施している。総合的な学習の時間においては、全学年で探究活動を実施しており、生徒自身がテーマ設定をし、そのテーマについて、学術的な研究を進めている。

一方、入学してきた生徒の英語力の差は大きく、英語による授業に不安を示す生徒も少なくはない。授業内容の確実な定着に向けて、EAL・当該教科の日本人教員の配置等、英語に課題がある生徒のサポート体制の構築を進めてはいるが、こうした課題をどのように解決していくのかを抜本的に考えていく必要がある。

また、本校では「生徒指導部」という表現を使わず、「Well-being 部」という表現を用いて、生徒のエージェンシーを養う環境づくりを進めている。「自由」を標榜する学校ではあるが、学校文化を醸成させていくために、より高次のレベルにおいて、「自律」に基づいた公共心を育てていく教育活動を、計画的に進めていく必要がある。

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】**

令和3年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を令和2年度からの2年間で全体の90%以上にする。

令和3年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が活かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、令和2年度からの2年間で全体の90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

令和3年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検準2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を80%以上にする。

令和3年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。

令和3年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。

校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。

年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が活かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の 70%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。

中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。

中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。

校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。

学校園の年度目標

令和 3 年度の英語力調査における、中学校 1 年修了段階での英検 3 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。英検準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 20%以上にする。

令和 3 年度の英語力調査における、中学校 2 年生修了段階での英検準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。英検 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 20%以上にする。

令和3年度の英語力調査における、中学校3年生修了段階での英検2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。英検準1級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を15%以上にする。

年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。

各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は、2学期までで教頭が退任し、3学期から高校教頭が中学教頭を兼務することにより、いくつかの対応についてより高校に近い形での対応をし始めている。次年度に向けては、中高一貫としての系統立てた対応ができるように進めていく。

開校3年目ということで、1期生が卒業を迎える。中学1期生は、80名の入学者で全員進級して来た。ここにきて水都国際高等学校に進学する生徒は、72名となった。8名が他の高等学校への進学を予定しているが、水都の課題探究型の教育や英語教育に対する不信感や、目指す進路実現に向けてなど様々である。この原因としては、開校当初から現在に至るまでの立ち上げの時期という点と、社会情勢をはじめとして様々な外部環境の変化によるところが大きいととらえている。これからの3年間についてはより学校として安定かつ今まで以上に基礎学力の定着により注力して教育活動を展開していくことを計画している。

英語力については、多くの生徒で向上しており、大阪府で行っているチャレンジテストの結果においても結果として表れている。進路指導の観点から、チャレンジテストによる大阪府内の公立学校の中での水都国際中学校の位置を把握し続けるとともに、中高一貫校としての中学校の位置を把握するための外部試験を導入する予定である。

一方で、年度当初より課題となっていたマナーの問題については、この1年間かけてWell-Being部を中心に、対策並びに次年度に向けての取り組みを進めているところである。指導に関しては、主に試験期間中の不正行為やそれに類する行為に対する者が多く、保護者と生徒本人に説明・指導する件が発生した。

新型コロナウイルス感染症への対策を含め、生徒が安全・安心に学校生活を過ごしていく環境を引き続き維持していく。

大阪市立水都国際中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 2. 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 3. 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 4. 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。 2. 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が活かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の70%以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>防災・減災教育の推進 南海トラフ地震を想定した地震及び津波に関する知識を深め、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を養う。区と連携した防災カリキュラム作成・活用の推進を行う。</p> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 火災・震災を想定した防火訓練、防災訓練をそれぞれ年に1回実施する。 2. 登下校報告書を生徒に作成させる。 	B
<p>取組内容②【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>安全教育の推進 安全（防犯）に対する心構えなどの指導を計画的に、継続的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に理解できる取組を行う。</p> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネット、SNS 等に関するオリエンテーション等、メディアリテラシーに関する継続的指導を実施する。 2. 不審者対応に関する講演会、または研修等を年に1回以上実施する。 	A
<p>取組内容③【施策2：道徳心・社会性の育成】</p> <p>道徳教育の推進 徳目を押し付けるような価値の注入教育ではなく、生徒自身が自分の価値を気づくことができる取組を行う。その気づきによって生徒が、実践的な行動における価値の選択をし、選択した価値の違いによって、行動の結果がどのような違いを示すのかを、具体的に認識できるようにさせる。</p> <p>指標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育推進委員会を中心に「特別の教科 道徳」のカリキュラムを作成し、実践する。 2. 評価に関わる研修を年に1回以上実施する。 	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● コロナ渦において、予定されていた実地の防火・防災訓練はできなかったが、オンラインを通して、南海トラフ地震及び津波に関する知識を深める授業を全学年で実施した。一方、登下校報告書や住之江区との連携が不十分であったため、その点を下半期において、取り組みを進めていきたい。(①) ● 全学年における特別活動や道徳の授業を通じて、インターネット、SNS の使い方やルールを学んできた。一方、コロナ渦ということもあり、不審者対応に関する講演会等を実施することができてきないため、下半期においては、講演会またはそれに準ずる取り組みを進 	

めていきたい。(②)

- 道徳の授業においては、担当教員を中心に、学年のすべての教員がローテーションを組みながら、それぞれの授業を担当している。全学年共通した評価シートをもとに、一貫した評価を進めることができている。(③)

次年度への改善点

概ね達成できているが、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の周期的な拡大により、通常の学校生活をなかなか送ることができず、宿泊行事については全く行えていない。そのような状況の中で、不登校になる生徒については、オンラインによる授業配信を通して、学校に登校することが難しくなった、足が向きにくくなった生徒は、一定数見受けられた。様々なことがオンラインで開催できるようにはなったが、一方で、対面で行う教育活動の意義や必要性、生徒への影響について、昨年にも増して考える機会が多い1年であった。

また、新型コロナウイルス感染症が拡大している時期でも、生徒は必要があれば登校してきているので、いかに安全にかつ生徒が必要とする場や環境を提供していくのかを今一度分析し、改善していく必要がある。

大阪市立水都国際中学校 令和 3 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和 3 年度の英語力調査における、中学校 1 年修了段階での英検 3 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。英検準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 20%以上にする。 令和 3 年度の英語力調査における、中学校 2 年生修了段階での英検準 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。英検 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 20%以上にする。 令和 3 年度の英語力調査における、中学校 3 年生修了段階での英検 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。英検準 1 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 15%以上にする。 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。 各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を 80%以上にしていく。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の推進</p> <p>1. 本校の教育理念である3E(Encourage, Engage, Empower)をもとに、社会に貢献する協創力をみがく。</p>	A
<p>指標</p> <p>1. 中高合同の教員研修を学期に1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容②【施策6：国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>英語教育の強化</p> <p>1. 英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の各教科において英語を用いた授業を実施する。</p>	A
<p>指標</p> <p>1. 授業を通して、英語を活用したプレゼンテーションを英語・数学・理科・グローバルスタディーズ(国際理解)等の各教科において実施する。</p>	
<p>取組内容③【施策6：国際社会において生き抜く力を育成】</p> <p>国際バカロレア認定校としての取り組み</p> <p>1. 自国の伝統文化に根ざした国際理解教育と外国語教育に重点を置き、授業において協創的な課題探究型学習を多く実施し、英語によるコミュニケーション能力、異なる文化や考えを理解し、多面的に深く志向する力、生涯にわたり学び続ける態度等を育成していく。</p>	B
<p>指標</p> <p>1. 中高一貫校、国際バカロレア認定校として、各教科におけるカリキュラムの開発、実践を行っていき、大阪市内をはじめ多くの教育関係者に向けた研修会や授業公開、体験授業を年に3回以上実施する。</p>	
<p>取組内容④【施策7：健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>健康に関する現代的課題への対応</p> <p>1. 健康に関する指導を推進するとともに、手洗いの励行など日常的に指導し感染症予防に努める。</p>	B
<p>指標</p> <p>1. 健康に関する指導の推進、並びに感染症等、生活習慣病、環境問題、心の健康、喫煙、飲酒、薬物についての正しい知識を身につけさせる体験型の取り組みを年に1回以上実施する。</p>	
<p>取組内容⑤【施策8：施策を実現させていくための仕組みの推進】</p> <p>校務負担を軽減するための環境整備</p> <p>1. ICTの活用による学校経営の効率化、高度化や学校情報発信の促進、授業資料</p>	A

並びに定期試験や授業内の小テスト等の ICT 機器を活用した実施を推進していく。	
指標 1. 会議資料、授業資料等の配布回収をネットワーク上で共有し、CBT(Computer Based Test)の形式での試験を年に1回以上実施する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育理念の定着をはかり、その理解を授業だけでなく、すべての教育活動へ活かすことができるように、全教職員を対象としたワークショップを8月に実施した。(①) ● 英語・理科・数学・グローバルスタディーズの授業において、英語を用いて授業を実施してきた。また、それぞれの教科において、英語による言語活動を推進してきた。(②) ● 市内の教員を対象とした教員研修を継続的に実施することができている。また、高等学校において国際バカロレアの授業を担当している教員が、中学校の授業を担当している科目も多く、教員間で連携を取りながら、課題探究型学習を推進してきた。(③) ● 健康に関する指導について、定期的な生徒への注意喚起に加え、特別活動や保健体育科の授業を通じて、感染症予防に努めてきた。下半期では、体験型の取り組みを実施していきたい。(④) ● 会議資料、授業資料等においては、グーグルクラスルームを積極的に活用し、昨年度以上に業務効率化をはかることができている。また、いくつかの教科において CBT 形式での試験を実施することができている。(⑤) 	
次年度への改善点	
<p>次年度は、より対面での授業が中心に戻ってくることを想定し、対面におけるアクティブラーニングの方法を、各教員で研鑽していったり、全体で共有していく時間を定期的に設定していったり、研修に参加した教員からの伝達研修の設定等を準備していき、効率よく教員の資質向上を目指していくことを計画していく必要がある。</p> <p>英語教育の強化については、基礎事項と発展事項を教員側も理解し、基礎をしっかりと固めてから発展的な内容に取り掛かるよう計画の見直しが必要となってくる。実際に、数学においては、学習する言語を日本語の割合を増やし、基礎的理解を徹底しそのうえで言語の置き換えとなる英語での授業を提供していく。</p> <p>健康に関する現代的課題への対応については、引き続き国や教育委員会の方針を確認しながら対応していく。</p> <p>校務負担軽減のための環境整備については、次年度の組織形態を変更し、業務の明確化を進めていく。また、本校特有の日本人教員と外国人教員の責任や業務のバランスについても適正化していく。</p>	

令和3年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 水都国際中学校 学校協議会

1 総括についての評価

【評価について】

運営に関する計画（自己評価総括シート）のとおり

【学校の運営状況】

緊急事態宣言下やコロナ感染拡大期においてオンライン授業を展開し、登校不安を抱える生徒のためにハイブリッド授業を行う等、より生徒の状況に応じた対応を充実させ、授業を展開している。また、助成金取得によるプログラム展開として、生徒自らがSDGs達成に貢献し、社会課題を解決していくプロジェクト型学習「水都アクションプロジェクト」ならびに、中学校の総合的な学習の時間において「つくることから学ぶ」をモットーにしたクリエイティブラーニングを実施している。先進的な取り組みを行う事で、全国的に注目される学校となっている。生徒・保護者の期待に応え信頼される学校となるよう継続的な研鑽が必要である。

【自己評価について】

自己評価はもう少し厳しく評価すべきである。今年度、中学1年生から高校3年生までの全学年が揃い、初めての卒業生を送る事ができた。これからのコロナ後の海外進学や国際交流、2025年の大阪万博に向けての地域との連携、高校生が増えていく中でのより一層のWell-Being部の重要性を再認識し、より良い学校づくりを期待する。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

【学校園の年度目標】

1. 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。
2. 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の70%以上にする。

【評価】

- ・運営に関する計画（自己評価総括シート）のとおり
- ・年度目標は、中期目標に従い、より具体的な取り組みが計画されていたが、今年度はコロナ禍においてオンラインでの取り組みが多く、実際の対面での取り組みができていない。
- ・中高一貫校として、大学との連携も視野に入れた高校生の取り組み内容などを中学生にも共有する事で中高一貫教育の特色を生かしていくと共に、キャリア教育を展開していく事が必要と考える。

年度目標：心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上

【学校園の年度目標】

1. 令和3年度の英語力調査における、中学校1年修了段階での英検3級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。英検準2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を20%以上にする。
2. 令和3年度の英語力調査における、中学校2年生修了段階での英検準2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。英検2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を20%以上にする。
3. 令和3年度の英語力調査における、中学校3年生修了段階での英検2級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。英検準1級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を15%以上にする。
4. 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。
5. 各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を80%以上にしていく。

【評価】

- ・運営に関する計画（自己評価総括シート）のとおり
- ・年度目標は、中期目標に従い、より具体的な目標設定がなされており、今年度は概ね目標を上回って達成されたと認める。
- ・本校の特徴である英語力について、スピーキング・ヒアリング力は秀でたものとなっているが、基礎能力である語彙力・文法力の向上に日本人英語教諭の研鑽が必要である。
- ・非認知スキル、問題解決能力の育成は探究授業を通して実践できているが、特に基礎学力の部分で数学においては、学習する言語を日本語の割合を増やし、基礎的理解を徹底する取り組みは今後の学力向上の成果が出る事に期待する。

3 今後の学校園の運営についての意見

【中期目標について】

- 「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」コロナ禍において上記のようにオンライン授業やハイブリッド授業を展開し、生徒のケアを行ってきている。さらに踏み込み、対面で行う教育活動の意義や必要性、生徒への影響について引き続き議論を行う必要がある。
- 「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」大学入試改革の見送りがなされる中、本校の特徴である探究型の教育、英語の4技能に対する教育のあり方の摸索、今後の学力向上に向けた方策に対して引き続き議論を行う必要がある。